

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の促進
------	-------------------------

研究テーマ	ヨーロッパと日本の国際推進事業のプログラム化の開発：連携から協働				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	上野 雄史

講演題目
国際連携から協働へ：ヨーロッパ諸大学との教育・研究交流の深化と成果
研究の目的、成果及び今後の展望
本取り組みでは、「連携」から「協働」への発展を目指し、ヨーロッパの諸大学との国際交流の深化と共通プログラムの開発に取り組んだ。従来、本学はブレーメン工科大学（ドイツ）、バリエドリード大学（スペイン）、パルマ大学（イタリア）などと大学間協定を締結し、学生派遣や特別講義を実施してきたが、教育プログラムの共同開発には至っていなかった。 2024 年度には、学生交流、教員交流、共同研究の各分野で具体的な成果を上げた。学生交流の面では、パルマ大学の学生が 6 月に来日し、梅ヶ島で合同フィールドワークを実施したほか、本学の学生も 3 月にパルマ大学主催の WIDE プログラムに参加し、国際的な学習機会を得た。短期間ながらも充実した交流が実現し、今後のプログラム発展に向けた貴重な知見が得られた。 教員交流においても、活発な動きが見られた。食品栄養科学部の三好准教授が 7 月にパルマ大学を訪問し、ペドロ教授と共同研究を進め、その成果が学会賞を受賞した。経営情報学部の大久保あかね教授は 9 月に学生を引率し、現地での交流を実施した。さらに、6 月と 9 月には本学の教員がパルマ大学で講義を行い、教育面での連携が強化された。12 月には、ブレーメン州立経済工科大学のステファン・ファイト教授が本学を訪問し、経営情報学部の上野雄史教授との共同研究成果を「The 15th International Conference of THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW」で発表した。また、滞在期間中には、国際交流に関わる教員との意見交換を行うとともに、全学共通科目「Introduction to Business Analysis B」において、日独の自動車メーカーの企業価値評価に関する特別講義を実施し、学生とのディスカッションを深めた。 共同研究の面では、三好准教授とペドロ教授の共同研究を継続・発展させ、国際学会での発表および論文投稿の準備が進められた。また、ファイト教授と上野による EU の保険業に対する金融規制の経済的影響に関する研究も進展し、日米のデータを活用した分析が行われた。 これらの成果を踏まえ、2025 年度以降の展望として、パルマ大学との正式な学生交換プログラムを開始し、受入・派遣の枠組みや支援体制を確立する。また、短期交換プログラム（WIDE プログラム）の拡充や、学生向けの事前・事後研修の整備を通じ、より充実した学習環境を提供することが重要である。教員交流の面では、国際交流費を活用し、アムナー准教授の訪問・研究調査を企画し、共同研究のさらなる発展を図るとともに、バリエドリード大学との長年の交流を継続し、協働プログラムの可能性を模索する。